

再読文字について

「再読」とは、同一文字を二回読むという意味である。

再読文字は、

同一の文字で

- ① (一度め) **右側**から読んで、
- ② (再読文字を離れ) **下方**を読み、
- ③ (二度め) **再び左側**に戻る文字で、

同じ文字で右側①と左側③に読み仮名や送り仮名が付く。

但し、再読文字に戻って文が終止する場合は、
〔「将」の「す」・「未」の「ず」など〕送り仮名がないものもあり、読み仮名も省略されるので、自分で補って読めるように。

自分で補って読めるようになるには、再読文字とその基本的な読みを覚えておくとよい。

再読文字は全部で一〇字。

未 A (①未だ②Aせ③ず) 「まだAしない」
将 A (①将に②Aせんと③す) 「いまにもAしようとしている・いまにもAしそうだ」
且 A (①且に②Aせんと③す) 「いまにもAしようとしている・いまにもAしそうだ」
当 A (①当に②Aす③べし) 「当然Aすべきだ・Aしなければならぬ」
応 A (①応に②Aす③べし) 「当然Aすべきだ・Aしなければならぬ」
宜 A (①宜しく②Aす③べし) 「Aするのがよい」
須 A (①須らく②Aす③べし) 「Aする必要がある・Aしなければならぬ」
猶 A (①猶ほ②Aのへ③Aするが④ごとし) 「まるでAのようだ・Aとおなじだ」
由 A (①由ほ②Aのへ③Aするが④ごとし) 「まるでAのようだ・Aとおなじだ」
盍へ③盍 A (①盍ぞ②Aせ③ざる) 「どうしてAしないのか・Aすればいいのに」ち

再読文字を含む文を書き下し文にする際は、再読文字の一度目は漢字・送り仮名(右側)をそのまま書き、二度めに読む左側の部分はひらがなで書く。

☆ 漢文で「また」と読むものについて

亦

- ① 〴もまた同様に。 （「も亦」と読むことが多い）
② 感嘆 主に「不亦〴乎」（亦〴ずや）の形で
なんと〴ではないか。

又

再び。さらに。

有

再び。さらに。

復

くり返し。重ね重ね。

▽ この部分の現代語訳の「なんとまあ、」の後に、「〴もまた同様に」の意味を加えて「世の中には不思議なことがいくつもあるがこの猫のことと同様に」をいれると、本文に表現されていないことを考慮せざるをえなくなり、煩雑になるためこのように簡単なものにしました。
あるいは、一字目の「噫」との関係で、詠嘆になるとも考えられます。

※ 教科書によって「また」の「た」を送り仮名にしない場合もあります。